



支援センターだより



2011.5 発行 vol.79

新しく入園、入学されたご家族の皆様、おめでとうございます。

4月も終わろうとしています。新しい環境にも少しずつ慣れてきたのかなと思います。桜の花が咲き誇り、あーきれい！と思っていると風に吹かれてぱらぱら散り始め、あっという間に葉桜になってしまいました。でも上を見上げると新芽の黄緑、ちょっと深い緑と様々な緑を目にする事ができ、素敵な春を感じています。

5月5日は「こどもの日」、もともとは古代中国発祥の厄払いの行事だったようです。この時期は季節的にも雨季を迎える事から、病気や災厄の祓いは大事な行事で菖蒲や蓬（よもぎ）が邪気を祓うとされ飾ったり、食べたりしていたそうです。こうした古代中国の風習が日本に伝わり、平安時代に端午の節句（せちえ）という宮中行事になったようです。香り高い菖蒲で屋根を葺いたり体に付けたり、薬玉を飾ったり…のその時代の過ごし方は『源氏物語』や『枕草子』にも出ているようです。鎌倉、江戸時代になると男の子が強く逞しく育つように成長を願ったお祭りとして定着していたようです。そして、昭和23年に「国民の祝日に関する法律」で「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福を図るとともに、母に感謝する」日となり、男女の別なく「こどもの日」をお祝いするようになりました。



どの家庭のどの親も子どもが健やかに育って欲しいと願っています。

でも、大きくなっていくにつれ、時として子どもは大人の思いとは違う姿を見せる事があります。その時、大人が子どもの姿を自己主張が出てきたんだな、大きくなったねと余裕を持って見られるか、付き合えるか、自分の思うようにしないと否定的に見るかによって子どもとの関わり方も違ってきます。

子どもは人と人との関わりの中で、自分の思いをしっかりと表現しながら相手の思いも理解していく事を少しずつ身につけていくのです。5月5日のこどもの日には子どもが大きくなった事を一緒に喜んであげられるといいですね。

